

韓国

インバウンド需要の回復が景気の支えに

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部
 研究員 立石 宗一郎
 tateishi.soichiro@jri.co.jp

■景気は力強さを欠くも、回復継続

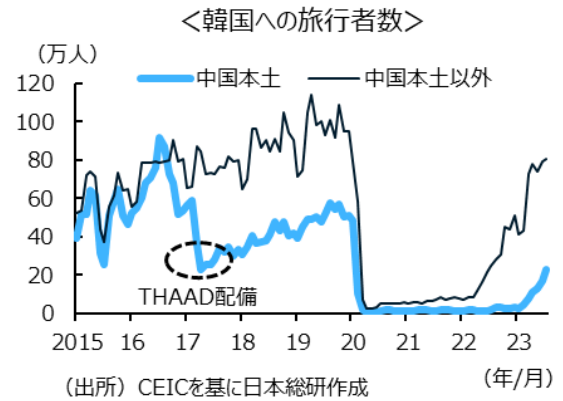
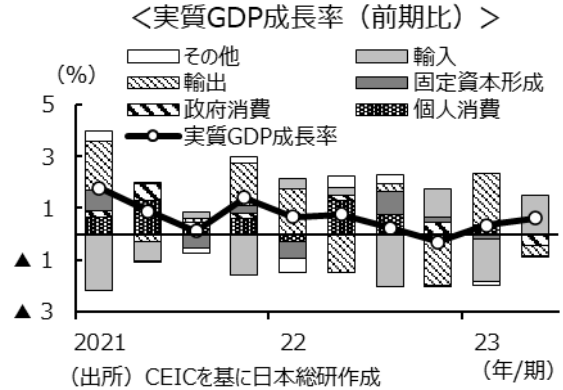
韓国の4~6月期の実質GDP成長率は前期比+0.6%と、前期(同+0.3%)から伸びが加速した(右上図)。ただし、数値の改善には輸入の減少による部分が大きく、経済活動の実勢は弱い。半導体市場の悪化や中国経済の低迷を反映して、輸出は同▲0.9%、総資本形成は同▲0.1%と減少した。利上げによる住宅ローンの利払い負担の増加等を背景に、個人消費も同▲0.1%と弱含んでいる。

足元の景気は力強さを欠いているが、今後はインバウンド需要の回復と半導体需要の持ち直しにより、回復の勢いを増す見込みである。8月に中国政府が韓国への団体旅行を解禁したほか、韓国政府は9月に中国人団体観光客の電子ビザ手数料を年末まで免除する等観光客誘致策を実施しており、観光業への追い風が強まっている。中国政府は、2017年以降、在韓米軍への高高度防衛ミサイル(THAAD)配備への報復措置として韓国への団体旅行を禁止してきたため、今回の措置により、中国人の韓国への団体旅行は6年ぶりに解禁されたことになる。報復措置がとられる前は、訪韓旅行者の約4割が中国本土からで、そのうち4割近くを団体旅行者が占めていた(右下図)。今回の解禁を受け、中国人観光客は大幅な増加が見込まれる。

さらに、世界経済が減速傾向にあるなかでも、財輸出には底打ちの兆しがみられる。実質財輸出(季調済)の7~8月平均は対4~6月平均比▲0.9%と減少しているものの、足かせとなっていた中国・香港向け機械類・輸送機器は同+0.6%と小幅ながら増加した。7月の世界半導体売上は前年同月比▲7.3%と、2023年前期の前年同期比▲20%から減少幅が縮小している。今後は、半導体市場の在庫調整がさらに進展することで半導体輸出が早晚勢いを取り戻し、2024年にかけて輸出全体も回復に転じる見通しである。

■来春の総選挙は「ねじれ国会」を解消できるかが注目点

なお、政治面のリスクには注意が必要である。韓国では、2024年4月に国会議員総選挙が予定されている。現在の国会は野党「共に民主党」が過半数を握る、いわゆる「ねじれ国会」となっている。尹政権は日韓関係の改善等外交面で成果を残しているが、内政面では、野党の反対により法改正を阻まれており、尹政権が重視する労働市場や年金保険等の改革が進んでいない。与党「国民の力」は総選挙で多数派を目指すのが、9月の世論調査では、与党と野党の支持率はそれぞれ34%と同率になっている。総選挙の結果、与党の過半数割れが続き、重要政策の実行がさらに遅延する場合、長期的な経済成長への悪影響だけでなく、金融市場の不安定化等を通じて短期的にも景気悪化を招く恐れがある。



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。